

平成30年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1 総合学科の特長を活かし、主体的、対話的で深い学びを取り入れた授業実践を通して、個々に応じた進路実現を目指す。	① 総合学科の特長を活かし、生徒の多様なニーズに合わせた科目選択や体験活動を通して、生徒の進路実現を図る。	総合学科として、科目選択や様々な体験が生徒の進路実現に意義あるものとなっている。 (ア) よく当てはまる (イ) やや当てはまる (ウ) あまり当てはまらない (エ) まったく当てはまらない (ア)+(イ)の% 90%以上 A、80%以上 B 70%以上 C、70%未満 D	77.5% C	・総合学科として科目選択や様々な体験が生徒の進路実現に意義あるものとなっているが、現在の系列が生徒の志望進路と合わない面も出て来ている。今後は、生徒の多様な進路に対応した、本校の特色をより強く出すことができる系列、科目選択を考えていきたい。
	② ICT機器やアクティブラーニング(AL)の手法を授業に取り入れ、生徒の主体的な学習に結びつける。	生徒の言語活動や自己表現力を高めるため、ALの手法を授業に取り入れている教職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	81.4% B	・昨年度よりも、アクティブラーニングの手法を何らかの形で取り入れている教員は増加している。 ・授業互見・研究授業・教員研修等を通じ、個々の教員がアクティブラーニングについての技量をさらに高め、生徒の主体性をより高めていきたい。
	③ 授業ごとの学習目標を明確にし、生徒が授業内容を理解し、主体的に学ぶような指導を展開する。	授業ごとの学習目標を理解し、主体的に学習している生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	69.6% D	・授業の導入において、学習のねらいと流れを示す手法がしっかりと定着してきた。しかし、単元ごとの目標やゴールのイメージを認識できるものの、すべての生徒の意欲や主体性を高めるまでには至っていない。 ・生徒の意欲をかきたてるためにも、ICT機器を用いるなどして、興味関心を高める指導内容になるよう、なお一層の工夫を加える必要がある。
	④ 「進学ロードマップ」の作成や模擬面接等の充実を図り、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。	ア・イ・ウの3指標のうち(ア 国公立大学合格者数10名以上、イ 金沢大学合格者数1名以上、ウ 就職内定率100%) A 3指標すべてを達成 B 2指標を達成 C 1指標を達成 D 3指標とも達成できず	就職内定率100% C	・達成できたのは指標ウのみである。指標ア・指標イの達成のために個別指導の改善と模擬試験の見直しの徹底を図ったが、次年度はそれらに加えて、受験レベルを意識した深い学習内容の指導について工夫が必要である。 ・就職指導について、マナトレ(国語・数学・英語の基本的な内容のドリル)を足がかりに、中学校までの知識の学び直しを確実に行って、本年度同様、基礎学力の定着を図る。
学校関係者評価委員会の評価	・来年度以降もマナトレ(国語・数学・英語の基本的な内容のドリル)を中心とした朝学習を続けて、生徒の基礎学力の定着に努めてもらいたい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	・来年度も朝学習時にマナトレを活用し、生徒の基礎学力の定着を図る。達成度の十分でない生徒に対し、再テストや個別指導を実施するなど、粘り強く指導していく。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
2. 部活動や体験活動を柱に、生徒のコミュニケーション能力や規範意識、自律心の向上を図り、人間力の育成に努める。	① 登校指導や街頭指導、地域に出向いての活動等ですっかりとあいさつができるよう指導を行う。	しっかりとあいさつができたと思う生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	74.4% C	・昨年度よりも登校指導に力を入れ、1年間を通して挨拶指導を継続的に実施した。全校集会や学年集会でも挨拶の大切さを丁寧に説明した。 ・指導の効果が表れ、少しずつ挨拶できる生徒が増加しているものの、十分でない生徒も見られる。今後も根気強い指導を継続する。
	② 交通安全教室や街頭指導等を通して、交通ルールを守る指導を行う。	交通ルールや自転車のマナーに気を付けていると答えた生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	82.1% B	・自転車の夜間における無灯火での運転・二人乗り・並進が本校の課題である。 ・生徒指導課と学年会が中心となり、登下校時の指導を強化する。交通安全教室の実施やPTA自転車乗車マナー一斉指導など、交通ルールの遵守について継続的に指導啓発する。
	③ 部活動の活性化を通して、生徒の自律心を向上させ、人間力を育成する。	本年度の目標を達成することができたか。 (ア) 達成することができた (イ) だいたい達成することができた (ウ) あまり達成することができなかった (エ) 達成することができなかった (ア)+(イ)の% 90%以上 A、80%以上 B 70%以上 C、70%未満 D	70.8% C	・各部は目標を設定し、達成へ向けて工夫・努力をした。しかし、目標を達成できない部が3割近くあった。 ・次年度は、目標達成への具体策を明示して、途中経過の様子を部活動全体で共有しながら、必要なら方策・対策を修正し、取り組んでいく。
	④ 「学校いじめ防止基本方針」をもとに、いじめの問題に学校が一丸となって組織的に対応する。	いじめの未然防止に取り組み、発生時には必要な情報を共有し、迅速な対応をする教職員の割合が 100% A、90%以上 B 80%以上 C、80%未満 D	97.7% B	・目標をほぼ達成することができた。 ・次年度は、本年度の取組をさらに徹底し、何よりもいじめが起きない環境作りを進めていく。
学校関係者評価委員会の評価		・挨拶指導は一定の成果を見せてはいるが、地域の方々にいつ会っても明るく挨拶できるように、学校全体としてさらに挨拶指導に取り組んで欲しい。 ・部活動の活性化を図り、寺井高校を地域に元気を与える学校として盛り上げて欲しい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		・挨拶の励行を向上させるため、学校としての目標を明確化かつ具体化し、全教職員の共通理解のもと挨拶指導を徹底する。 ・外部指導者を招聘して複数の部が合同で基礎トレーニングの方法を学ぶなど、部活動活性化に向けての取組を実施する。		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
<p>3 地域連携の充実や学校情報の積極的発信、学校業務の効率化を図り、保護者や地域に信頼される学校づくりを推進する。</p>	<p>① 生徒が積極的に地域へ出ていく活動を推進する。</p>	<p>地域の活動に参加する生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>70.4% C</p>	<p>・今年度はSCH（スーパーコミュニティハイスクール）を謳い、地域との取組を重視し、生徒会や部活動を中心に、多くの生徒が地域のボランティア活動や地域イベントなどに積極的に参加することができた。 ・今後、SCHの取組が確固としたものとなるよう、より多くの生徒が地域貢献活動に参加できるような計画・立案を試みたい。</p>
	<p>② 学校ホームページの内容をいっそう充実させ、生徒の様子を積極的に発信していく。</p>	<p>本校ホームページの年間アクセス数が A 80000件以上 B 78000件以上 C 76000件以上 D 76000件未満</p>	<p>88,000件 A 3/25 現在</p>	<p>・8万件を優に越えるアクセスがあった。様々な学校行事や地域との交流のある行事や部活動などについて、こまめに、かつ、積極的にホームページを更新したことで、昨年度以上にアクセス数が伸びたと思われる。 ・次年度は、メール配信でホームページの更新の情報を提供するなどして、更なるアクセス数増加に繋げていく。</p>
	<p>③ 保護者や地域の方が学校行事に参加する機会を増やしていき、生徒の様子を直接見てもらうことで、学校への理解を深める。</p>	<p>今年度、保護者が下記のような行事に参加した回数が (ア) 3回以上 (イ) 2回 (ウ) 1回 (エ) 0回 行事 PTA総会、学校祭、学校公開 進路説明会、部活動の応援・見学等 (ア)+(イ)の% 80%以上 A、70%以上 B 60%以上 C、60%未満 D</p>	<p>93.5% A</p>	<p>・全体として、昨年度より多くの保護者が来校した。昨年度同様、学校ホームページのアクセス数に比例して本校の活動に関心をもっていただくことが出来たためと思われる。 ・より多くの一般の保護者に本校に関心をもっていただくために、行事内容の充実、学校ホームページの創意工夫、メール配信活用による情報提供に取り組んでいく。</p>
	<p>④ 各種会議の縮減や教材の共有化など学校業務の効率化を推進し、教職員が生徒と向き合う時間の充実を図る。</p>	<p>校務分掌や教材研究等で業務の効率化を図っている教職員の割合が A 90% B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>81.4% B</p>	<p>・昨年度より、概ね、各月の時間外勤務の時間は減少している。教職員が業務の効率化を図ってきた証左と言える。 ・次年度は、本年度の結果に満足することなく、教職員が生徒と向き合う時間が増えるようにさらに学校業務の効率化を推進すると共に、他の方策も考えて取り組んでいきたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>		<p>・SCHの取組に大いに賛同である。寺井高校の活性化のためにも、地域の活動に積極的に参加する生徒を増やすことでより一層、元気溢れる寺井高校生を創って欲しい。</p>		
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p>		<p>・既存の企画だけではなく、学校側からも能美市、他機関等に積極的に働きかけて、本校生が参加できる企画を考えていきたい。これまでのように部活動や生徒会を中心とした企画だけでなく、本校の生徒全体を巻き込んで、地域の方々との接点をつくっていきたい。</p>		